

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 5

2013 No.704

3 はじめの言葉

4 改めて思いが馳せる

利便性の向こうに潜むリスク

田原文夫

油断のならないのは、今も昔も変わらない。それにしても、利便性と表裏一体で存在する脅威については、今さらに改めて驚かされる。国税電子申告・納税システム=e-Tax がスタートして、すでに6年以上が経過した。しかし、依然として、定着したと言える段階にはない。遅ればせながら、e-Tax での納税開始を体験することで、実に様々な現存する問題にも直面体験することとなった。長い間、企業情報システムに携わってきたなかで、いつも気にしてきたのが、現業部門ユーザーすなわちエンドユーザーの使い勝手の良さということだった。マンマシンインターフェイスとも称されるが、ユーザーと端末システムとの馴染みやすさを保証しながら、如何にして企業情報システムのスムーズな展開を図るか、それを一義的な配慮として、あるいは情報システム部門の義務として位置付けてきたポイントだった。企業情報システムと言えば、私的情報システムである。一方、e-Tax は社会的情報システムの典型例である。社会システムである以上、当然にして、私的情報システムなど及びもつかぬほど、より高レベルでのマンマシンインターフェイスへの配慮があって然るべきだと思い、臨んだのだが、期待は見事に外れた。しかも、そのレベルの低さには、国民の義務を果たすのが恐ろしくなるほどの怖さを感じさせられた。では、e-Tax 以外はどのような状況だろうか。インターネット時代だと嘆し立てられて、もう随分と経つが、利便性の向こうに潜むリスクに思いが馳せる。

10 情報社会を考える その32

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

いよいよ、新マイナンバー法案が5月9日にも衆議院本会議を通過する見通しとなっている。その利便性だけを言えば、相当の効果が期待できると言えよう。北欧4ヶ国と例えば、高福祉サービス国家として世界的にも先駆をなすことで知られる。例えば、身体に障害を持ち、あるいは高齢になって介護を受ける場合、国民は、医療から看護、介護支援を含めたあらゆるナーシングサービスを横断的かつ統合的に受けることができる。しかも、日本では医療機関毎にカルテが独立する形で持たれていることから、患者が他の医療機関／施設に移管されると、改めて基礎的検査から受診しなくてはならない。カルテ情報の共有がされていないからである。

1 2 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM 構築が必要か その 27

水田 浩

日本は、人口が減少して行くという社会にあって、国や地方自治体に一方的に頼るのではなく、住民自らが生活の質を維持していこうとする街づくりが指向されている。これが、スマートシティ、コンパクトシティというプロジェクト名で計画され、実施されようとしているものである。狭義的には、スマートシティは省エネルギーに重点が置かれ、コンパクトシティは高齢化問題に重点が置かれている。いずれにしても、構想も住民が主体であり、その運用も住民が主体である。

スマートシティの 2012 年の重要な成果は、実証実験で節電、オンデマンド、ピークカットなどの数々の成果が出てきたことである。例えば、コミュニティ全体でエネルギー管理の最適化を図る横浜市、家庭と自動車におけるエネルギー利用に力点を置く豊田市、エネルギーの情報化に係る先導的技術実証の関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）、新日鉄の自営線を活かし、新エネ、最適化、見える化、交通システムの整備をする北九州市の 4 地域で繰り広げられている。

1 7 連載 アーキテクチャ論 (25)

アジャイル開発とアーキテクチャ(1)

山本修一郎

本稿では、アジャイル開発手法とアーキテクチャとの融合手法について解説する。最初からすべてを計画するのではなく、顧客と開発者との反復的な対話に基づいて、必要なソフトウェアを効率的に開発する方式がアジャイル開発手法である。一方で、適切なアーキテクチャを考慮しておかないと、個別的に開発されるソフトウェア全体を最適に統合できない可能性もある。このため、アジャイル開発手法の中でアーキテクチャを考慮する方法が提案されている[1][2][3][4]。

本稿では、まず、アジャイル開発手法を概観する。次いで、アーキテクチャを考慮したアジャイル手法として、アーキテクチャ中心に基づく(Architecture-Centric)アジャイル開発手法[1]と、アジャイルアーキテクチャ手法 (C3A) [2]について説明する。

2 4 インターネット運用環境としての法的整備を考える

aism

企業等組織レベルでのセキュリティリスクサーベイのススメをしてきたが、さらに別の観点でセキュリティリスクを考え直すべき命題が出てきている。内容的にはすでに旧聞に属するかもしれないが、法制化され、あるいは法案が国会を通過するとなると、改めて、真正面から考えてみる必要がある。ひとつには、新マイナンバー法案であり、今ひとつがインターネットによる選挙活動の開始である。衆知のようにインターネット上では様々な妨害や事件は猛威をふるっている。このまま放置できる状況にない。それでも何とか耐えてきたのは、「自己責任の範囲での活用」という大前提があったからである。しかし、新マイナンバー／ネット上の選挙活動の解禁となると、自己責任で済まされない。運用のための法整備が急務である。

27 ものの造れる日本再生に向けて その20

第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第20回 スキルズインベントリを基盤とする

人的資源管理（HRM）システムの構築（6）

1970年代のオイルショック後の1980年代は「激動の時代」と予測されたが、実は、「ジャパンアズNo1=No1としてのニッポン」という、今にして思えば黄金期だった。その黄金の夢が一気に醒めたのが、1991年のバブル崩壊という悪夢からの出発だった。そしてそれは、さらに厳しい姿勢で日本全体の産業界のリストラクチャリングに挑戦する時代の幕開きだった。まさに温故知新である。新興国にはない一企業の枠を超えたリストラクチャリングの歴史をひもといてみよう。鉄鋼、造船、エンジニアリング、自動車、電気・電子業界の動向を追いながら、これからの日本再生に向けて踏み込んだ展望をしてみたい。

33 IT新時代とパラダイム・シフト

第43回 将棋ソフトがプロ棋士に

勝利した電王戦の意義

根本忠明

今年3月に開催された「第2回電王戦」は、将棋ソフトとプロ棋士が団体戦で対戦するという事で、大きな関心を集めた。結果は将棋ソフトが勝利したが、この電王戦の意義は、プロ棋士と将棋ソフトとの対戦の新たな幕開けにある。今後、両者の望ましい協調関係が築ければ、プロ棋士の更なる技量向上につながり、同時に、コンピュータによる人工知能の更なる飛躍が期待されるからである。

36 続インテリジェンスへのいざない 40

データとの距離感をどう縮めるか

今井 武

1年後、2年後の見通しはできなくとも、10年後、20年後の見通しはできることがあるといわれる。これも確かに真理かもしれない。しかし、あまりにも多くのデータ／情報が錯綜している今日、長期的かつ安定的な未来予測をすることが困難になってきている。それが、インターネット上に存在する膨大なデータ／情報全体を分析することで、世の中の流れを掴みたいという焦燥に駆り立てている背景である。ビッグデータアナリシス（分析）というのがそれである。しかし、そんなに安直に叶う話ではない。基礎となるデータ／インフォメーションからインテリジェンスを創造するという基本視点を今一度確認しておきたい。

39 一味違うウェブ検索

第三十四話 「事典・辞書などの使い方」シリーズ

②ウィキペディア使って、有名人を調べる

ぐうのうえぶへい

世界での歴史上の人物から現在活躍しているタレント・スポーツ選手・学者・政治家まで、著名人や有名人に関して調べる必要が生ずることが、しばしばある。この時に役立つのが、無料の百科事典のウィキペディアである。この百科事典は、最大の人物総合事典でもあり、その使い方を紹介することにする。

41 新連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネストド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス
OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付 録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの
落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

一橋大学教授 安田 聖 監修
aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の
情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの(得)広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売れない企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著
(株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商事務所移転と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバリエーション
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安眠薬と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp